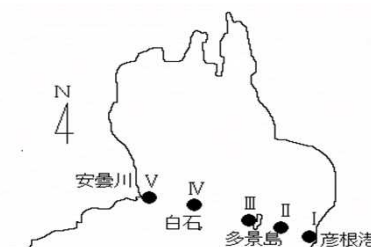


琵琶湖定点定期観測結果速報(令和2年6月)

数値は速報値であり、確定値ではありませんので、ご留意下さい。

調査年月日 令和2年6月15日

調査地点 彦根市～高島市安曇川町に至る5地点
(ただし、湖岸水温は彦根市八坂町
滋賀県水産試験場地先における測定値)



調査地点図

調査結果

平均値 … 5地点の平均値

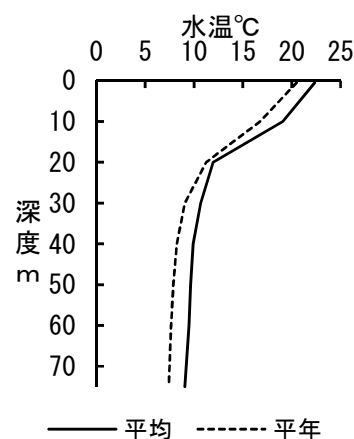
平年値 … 透明度、湖水温、湖岸水温、プランクトン沈殿量は1981年～2010年(昭和56年～平成22年)の同時期調査の平均値

DO(溶存酸素濃度)は2010年～2019年(平成22年～平成31年)の同時期調査の平均値

1. 透明度 6月平均値 4.4m 平年値 5.4m

2. 湖水温 (°C)

深度 (m)	6月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0.5	22.4	20.5	+1.9
10	19.1	16.8	+2.3
20	12.0	11.2	+0.8
30	10.7	9.0	+1.7
40	9.9	8.2	+1.7
50	9.7	7.9	+1.8
60	9.5	7.7	+1.8
75	9.1	7.4	+1.7



3. 湖岸水温 (°C)

月(旬)	平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
5月下旬	19.1	16.9	+2.2
6月上旬	21.1	18.7	+2.4
6月中旬	22.4	20.3	+2.1

4. プランクトン沈殿量 (ml/m³)

水層 (m)	6月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0~10	20.0	16.2	+3.8
10~20	8.2	4.3	+3.9
20~40	2.6	1.5	+1.1
40~75	0.7	0.6	+0.1

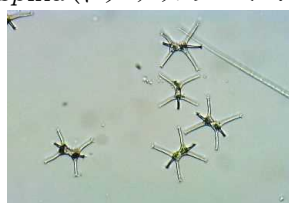
(プランクトンネットNXX14使用)

5. 表層のプランクトン優占種

○プランクトンネットNXX14による採集(植物:未固定 動物:5%中性ホルマリン固定)

植物プランクトンについては、全ての地点で *Staurastrum dorsidentiferum* (スタウラスツルム:緑藻) が細胞数で最も多く確認された。

動物プランクトンについては、全ての地点で Cyclopidae (ケンミジンコ科:甲殻類) と *Eodiaptomus japonicus* (ヤマトヒゲナガケンミジンコ:甲殻類) のものと思われるカイアシ類のノープリウス期幼生および *Daphnia galeata* (カブトミジンコ:甲殻類) および *Kellicottia longispina* (トゲナガワムシ:ワムシ類) が多く確認された。



Staurastrum dorsidentiferum



ノープリウス期幼生



Daphnia galeata.



Kellicottia longispina

6. DO (溶存酸素濃度 : mg/L)

深度 (m)	6月平均値		平年値		平年差	
	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)
0.5	10.05	(118.5)	9.99	(114.1)	0.06	(+4.4)
10	10.47	(114.7)	10.20	(108.6)	0.27	(+6.1)
20	9.83	(92.9)	9.87	(93.5)	-0.04	(-0.6)
30	10.01	(93.1)	9.89	(89.0)	0.12	(+4.1)
75	7.24	(64.7)	8.16	(70.3)	-0.92	(-5.6)